

● 草の根パートナー型

平成18年度第1回 採択内定案件

I. 提案事業の概要	
1. 国名	フィリピン
2. 事業名	環境保全型野菜生産による所得向上パイロット事業
3. 事業の背景と必要性	フィリピンにおける野菜の主要産地であるベンゲット州では、連作、化学農薬・化学肥料の多投によって土壌の疲弊を招き、生産が伸び悩み、農薬の残留による食品の安全性が脅かされている。近隣諸国から野菜輸入が急増して価格も低迷している。また、最近の原油高騰によって農薬肥料コストが上昇している。しかも急傾斜地に零細規模栽培しているため所得は低く、多くの農家が貧困な状態から抜け出せないでいる。このような問題を解消して地域農家の貧困軽減を図るためには、栽培地の土壌改良と栽培技術の改善によって収穫を増大させる一方で化学肥料、農薬の使用量を削減して生産費を削減することが必要である。またこのような栽培によって環境汚染を防止し、消費者にとって安全な野菜を供給することが求められる。このため、地域において野菜生産を行う先進的農家を中核にした野菜生産グループを形成して、関係機関との協力連携の下に実施する。
4. 事業の目的	低農薬低化学肥料（有機ベース）野菜生産を実現することにより、地域の環境を保全しつつ、安心かつ健康な野菜を供給するとともに、野菜栽培農家の所得拡大と地域の貧困軽減を目指す
5. 対象地域	ベンゲット州
6. 受益者層	<ul style="list-style-type: none"> ● 直接受益者：パイロット農家（4-5戸）及び彼らを中心とする実践農家グループメンバー（4-50戸） ● 波及効果受益者：ベンゲット州内野菜栽培農家（約1万戸）
7. 活動及び期待される成果	<ol style="list-style-type: none"> 1. 【活動】野菜畑の土壌改良：地域に存在する資材を使った堆肥、炭及び木酢を生産し、これを土壌に投与して土壌改良を行う。 【成果】フィリピンに適した土づくり技術が開発される。 2. 【活動】環境保全型野菜栽培技術の開発・実践：土壌改良された畑で環境保全型の野菜生産を行い、化学肥料や農薬の使用量を削減して安全・健康な野菜生産を行う。 【成果】改良土壌による環境保全型野菜栽培技術が開発される。 3. 【活動】人材育成とネットワーク形成：地域の先進的パイロット農家と、彼らのもとに結集する実践農家グループメンバーを、地域の関係団体・機関によって結成されるベンゲット地域環境保全型野菜生産ネットワークの支援の下に野菜生産の担い手として養成する。 【成果】環境保全型野菜栽培技術に熟達した有能な人材とネットワークが形成される。 4. 【活動】環境保全型野菜栽培技術の普及：上記により開発された技術を、栽培マニュアルとして取りまとめる。また普及用のパンフレット、チラシその他の広報メディアを作成する。プロジェクト成果を全国セミナーによって広く全国に普及する。 【成果】同上技術が全国に紹介・普及される。
8. 実施期間	2007年4月～2010年3月（3年）
9. 事業費	50,000千円（予定）
10. 事業の実施体制	国際農業者交流協会が活動主体となり、フィリピンのNGOであるフィリピン帰国研修者協議会をカウンターパート機関として、プロジェクトを実施する。
II. 応募団体の概要	
1. 団体名	国際農業者交流協会
2. 活動内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. 農業研修生をアメリカ及びヨーロッパへ派遣（約14,000人） 2. 農業研修生をアジア及びヨーロッパ諸国より受入れ（約1,700人） 3. 我が国農業指導者、農業後継者等による国際的シンポジウムの開催、海外への調査団派遣等を実施